



# わの会通信

Ver. 35

◆ H29. 8. 25 発行 発行元：NPO 法人わの会 住所：府中市住吉町 1-60-10 TEL/FAX：042-360-3626 ◆



## 2017年第1回理事会にて

NPO法人わの会理事長 佐々木公一

みなさん1年間お疲れ様でした。先日わの会ネット部門の総会があり、60人近い参加でとても盛況でした。子供7人の参加がありました。未来を実感しました。そこで下の挨拶をしました。

「本日新しい人、懐かしい人たくさんお出でいただきました。ありがとうございます。その中で53歳で盲学校に通い、按摩マッサージに挑戦されている方がこられておられます。お話いただけるそうで楽しみです。その方から私の勉強方法についてご質問がありました。少しですが、『魚たちは何のために生きるか』と考えるとノイローゼになります。けれども落ち着いて誰のために生きるのかと考えると安定します。地球の生態系を支えて地球のために魚たちは今日も生きています。私は声がでないですが、文字盤、パソコンのメール、ツイッター、Facebook さらにメーリングリストで1800人に送信しています。ニュースや新聞や本を読むとき、これは誰にどの方法で伝えるか？または伝えないか？を考えています。キーワードは“誰のために”です。

今日の議題は多いですが、5年後、10年後、50年後のわの会をしっかり見据えて議論を心よりお願いいたします。



特定非営利活動(NPO)法人 **わの会**

〒183-0034 府中市住吉町1-60-10  
TEL(代表):042-360-3626

わの会 HP はこちら→

<http://www.wanokai.com>



### 【6つの事業】

- デイサービスりんりん（通所介護）
- デイサービス第2りんりん（認知症対応型通所介護）
- ヘルパーステーションあいあい（訪問介護）
- 府中自立支援ネットワーク わの会（自立支援）
- 重度訪問介護従業者養成研修講座（研修事業）
- わの会相談支援事業（相談事業）



## 有料老人ホームで暮らしておられる A さんを訪ねて

Aさんはこの2月より、府中市内の長く住んでおられたM町から、N町の有料老人ホームに入所されました。Aさんは、居室のベットに座っておられ私たちを向かえてくれました。ここでの暮らしを尋ねました。

入居前はこの施設の良い事ばかり言われていたのですが、入居してみたら居室の窓も数センチしか開けられないし、好きだった植木も置けない。自宅にいた時は、20鉢位育てていて自分で水やりをしていたのに、ナースコールを押しても、ひどいときは20分位待たされるの。トイレをそんなに我慢出来ないと言ったら、少しは改善されたんだけど近頃コールを鳴らす時には、色々ある頼みごとをまとめておいてから押している。

トイレのドアは、使いやすいカーテンになっている、どうかなと思ったけれど消臭効果もあり、匂いも無く清潔で良いと思っている。居室自体は狭く、私は動けないので使いやすいが、今後、丸いテーブルを買いたいと思っているが置く場所があるかしら。食事の時は、食堂までスタッフが連れて行ってくれる。魚が好きでは無かったが和食の料理長の為かとても美味しい。本日も京都の料理を出してくれて、それぞれの健康状態にあった食事を提供してくれるので安心です。

ここでの暮らしは他に入浴(週2回)・トイレ等の車椅子への移乗を行ってくれるので助かる。時間がかかっても(特に夜間は2人のスタッフで対応しているので)24時間呼べば来てくれるので安心です。面会・買い物等も自由です。認知症の方ばかりですが、みなさん上手く付き合っている様子です。娘は、入居して安心しているようです。入居のきっかけは一人で車椅子に移乗出来なくなったからです。

利用料は月20万円位は掛かります。入居金も430万円でした。なんとなかなっているもので、ここに入居して良かったと思っています。5月27日のわの会の絵手紙教室や総会にも参加してみなさんとの繋がりをずっと待てるようにしたいと思っています。

わの会絵手紙教室  
で描いた私の絵、  
食堂に飾ってもら  
ってます！



一カ月後くらいに電話をおかけしたら、「料理人の料理も飽きるわ、認知症の人が多くて会話が成り立たないの。」と淋しそうな声でした。わの会では知人同士が府中で暮らせるホームを造りたい、終の棲家が課題になってきています。

(訪問者：自立支援ネットワークわの会事務局 中村千広)



## ALS患者 佐々木公一さんの介護に携わった感想

天野 統 康

**今** 回（平成29年7月22日・23日）、ALS患者の佐々木公一さんが主催されている「わの会」で、重度訪問介護従事者養成研修を受講しました。

介護関係に従事しているわけではない私が今回の研修を受けるきっかけになったのは、親族が佐々木さんと同じ難病であるALSを患ったことです。徐々に進行していく親族の病を、身近で介護する身としては、病状が重度障害の状態にまで進んだときに、「適切な介護が出来るようになっておこう」、と考え研修の受講にいたりしました。

佐々木さんを最初に見たときは、大変に深刻な印象を受けました。人工呼吸器につながれている状態は、私にとっては非日常的な光景だったからです。

しかし、佐々木さんの介護の現場に携わっている内にすぐに慣れてきました。そして介護のスタッフの方々のテキパキとしたきめ細かな行動に、佐々木さんが安心して介護を受けられる体制が整っていることを実感しました。興味深かったのは、四肢が全く動かない佐々木さんが、わずかに動く首を使ってインターネットを何時間も行っていたことです。今は科学技術の力を使って、誰でも社会に向かって情報発信が出来る時代なのです。また文字盤を使ったコミュニケーションの有効さは意外な驚きでした。インターネットと違い文字盤はアナログですが、何かの意思を伝えるときに大変便利なことが佐々木さんと介護スタッフの方々の会話を見ることでわかりました。デジタルとアナログを使いこなすことで、声もだせ指も動かさなくても不自由のない意思表示が可能なのだと感動しました。

**驚** いたことは、佐々木さんの介護に従事するスタッフの人数の充実ぶりです。24時間介護が必要な佐々木さんには、



必ず誰かが側にいます。佐々木さんの奥さんとお話をしていると、このような体制が整うまでには、ものすごい苦労があったとのこと。佐々木さんがALSを発症した20年前にはALS協会の東京支部がなく全て自分たちが手探りでやってきたということです。やはり、奥さんの献身的な介護と、生活環境の充実に大変な努力をされた結果なのです。

今回の研修を受けて重度障害者の置かれている状況に対する理解と、介護に携わっていく事の必要性、そしてやり甲斐を感じました。佐々木さんが出版された本の題名「やさしさの連鎖」という言葉が、これからの超高齢化社会を迎える日本には必要です。介護に最も必要とされているのは、他者より抜きんでようとする競争力ではなく、特別な能力でもありません。他者を思いやれる価値観です。それは「個人の尊厳」という、誰もが人格と幸福の追求を認められた日本国憲法と民主主義の基本理念を実現していくことなのです。

**全** ての運動機能を奪われるALSのような重度障害者の方々が、幸せに不自由なく過ごせる社会を創ることが出来たときに、全ての人々の個人の尊厳が実現された社会になるのでしょうか。人類はそのような社会を目指していくべきです。貴重な研修を体験させていただきありがとうございました。この経験を私の親族の介護に活かしていきます。



## 「感染症・食中毒についての い・ろ・は」

研修担当者:ヘルパーステーションあいあい サービス提供責任者 森田恵美

8月10日の法人研修会は感染症・食中毒について多摩府中保健所感染症対策担当 保健対策課より倉下氏・佐藤氏を講師にお迎えしました。デイサービスりんりん・ヘルパーステーションあいあい・わの会ネットワークから職員が参加しました。

**感** 染症で大切な事は①誰もがかかる可能性がある ②「誰もが何らかの感染症を持っているかもしれない」と考えて対応する ③便・嘔吐物・血液・痰等感染の可能性のある物への対応に気をつける ということです。私たちが訪問している利用者様は高齢であったり基礎疾患がある事から抵抗力も低下しており感染症リスクが高い事が挙げられます。その予防の為にヘルパーが媒体にならない様に日頃から自身の体調管理・清潔保持に気をつけなければなりません。

**最** 後に手洗いの演習を行いました。いつも自身が行っている通りに手を洗い、どれだけ汚れが残っているのか全員が確認し合いました。皆さん、ケアでグローブを使用した後に手洗いをしていますか？“グローブを着けていたから手は清潔！”と思っている方が多いのではないのでしょうか。今回の実験で意外にもグローブを外す際に汚れが手に付着しているという事が分かりました。**これからグローブを外した後も手洗いの実施を心がけましょう！**

また、**1ケア1手洗いの実施も大切です。**  
あいあいでは気管切開・胃瘻などの医療的ケアを必要な方が多くいらっしゃいます。排泄介助のすぐ後に吸引・胃瘻等のケアを行う事もあると思います。そんな時にヘルパーの手が汚染されている状況も少なくないと考えられます。自身で感染を予防する事が困難な利用者様へ“清潔で安全”なケアの提供が大切だと言う事を改めて学びました。

同行援護時も利用者様との距離が密になります。咳・クシャミ等でも感染症は広がりますのでマスク着用で拡大防止を図ることも同じく大切な事です。

**今** 回の研修では結核についても学びました。結核と聞くと非常に感染力の強い病気だと感じる方が多いかと思いますが、「感染」と「発病」は違うという事です。『健康保菌状態』と言い結核菌が体内にいるが発病していない状態の方で一生発病しない状態の方が8~9割いる。発病するのは高齢者など全体の1~2割程度だという事を学び、保菌した患者さん全員が周囲へ移す状態ではないという事を知りました。今後、健康保菌状態の方に出会った場合でも適切な対応の必要性を学びました。

